

# 特別番外編

今回は環境メルマ特別番外編、“アメリカブラウンフィールド視察記－石井と村上のアメリカブラウンフィールド珍道中－（サンディエゴ編）”をお届けします。

そもそものきっかけは、ERS 環境部の技術者二人（石井&村上）が ASTM 開催の Phase I に関するトレーニングに参加するにあたり、サンディエゴ市を訪問することになったため、“せっかくだから、ブラウンフィールドサイトや NPL サイトにも行ってこよう！”という話が持ち上がったことによります。

“せっかくだから”はどんどんふくらみ、“せっかくだから米国の役所にも訪問して、その対応の善し悪しなども確認してこよう！”と一見無謀とも思える計画まで立てて、意気揚々と日本を発ちました。果たして二人の旅路はいかに？

## サンディエゴ市ってどんなところ？

サンディエゴ市はカリフォルニア州南西端、すなわちアメリカ合衆国最南西端の街。メキシコとの国境までは約 10 マイルです。人口は約 130 万人（2006 年）で、全米第 8 位、カリフォルニア州第 2 位の人口を有しています。市の西側は太平洋に、南側はサンディエゴ湾に面していることから良質な港に恵まれ、米国海軍力の西海岸における母港として知られています。米海軍(United States Navy)、米海岸警備隊(United States Coast Guard)及び米海兵隊(United States Marine Corps)の軍事施設が集中しており、世界一の Naval fleet との異名もあります。

温暖な気候とロサンゼルスのような大気汚染の無い澄んだ空気など、自然環境面に優れていると同時に、大都市のわりには犯罪率が低く人口密度が小さいことなどから、“米国有数の住みやすい都市”をうたい文句としています。



写真-1 市の西と南側に広がる港には、艦隊が停泊中の埠頭が多くあるが一般人は近寄ることができない。写真は、一般人でも立ち寄れる“ミッドウェイ博物館”の様子。

## サンディエゴ市のブラウンフィールドサイト-Barrio Logan 地区-

Barrio Logan 地区（以下 BL 地区）は、サンディエゴ市街地から南東約 3km に位置する港に面した工業施設と住宅地が混在した地帯です。人口の 85%をスペイン系及びラテン系が占め、失業率は 15.2%（市の平均は 5.3%）（1997 年 10 月時点）です。

住宅地に工業用地が隣接しているなどの土地利用上の問題や、老朽化あるいは現在の基準を満たさない危険な建物が密集するなど安全上の問題、さらには所得の低さ・失業率の高さ等の経済上の問題及び人種の問題など、様々な問題を抱えていた BL 地区。サンディエゴ市はこれらの問題を解決すべく、BL 地区の再開発事業に着手しました（なお、サンディエゴ市内には再開発地区が複数あります）。

BL 地区は、EPA のブラウンフィールドパイロット事業基金を、1997 年に受けています。EPA(US Environmental Protection Agency)の Fact Sheet によると、この事業での最優先課題は、「経済を活性

化させ住民の健康と環境の質を向上させることであり、そのために汚染の可能性のある土地を特定した上で汚染浄化や施設の配置転換を提案する」とあります。

ちなみに、EPA とサンディエゴ市のウェブサイトからは、土壌汚染サイトとその浄化についての詳細（住所など）は入手できませんでしたが、とりあえず BL 地区に行ってみました。BL 地区は湾とフリーウェイに挟まれた地域です。大型トレーラーが行き交い、倉庫や製造業施設が点在しており、一見して快適な住環境ではないことがわかります。サンディエゴ湾に面した地区には大規模なプラント（用途不明。写真を撮っていたら警察の車が通り過ぎたので、別に悪いことをしているわけでもないけれどさっさと立ち去る）があり、埠頭には大型船が停泊していました（写真-2）。

“La Entrada Family Apartments Project”（写真-3）は、既存の施設（5つの事業所と13の住宅）を取り壊し、新たに低所得者を対象とした85世帯が入居できる賃貸アパートを建造する事業です。計画地は、柵で囲まれており、今まさに取り壊しが始まったというような状況でした。



写真-2 湾に面した地域。この右手には大規模プラントがある。



写真-3 “La Entrada Family Apartments Project”

### **役所訪問**

結局、実際に BL 地区に行ってみても、どこが土壌汚染及びそれに伴い浄化作業が行われた（行われる）土地か分かりませんでした。汚染サイトの詳細な住所とブラウンフィールドパイロット事業について話を聞くべく、プロジェクト担当部署である“Redevelopment Agency, The City of San Diego”を訪ねました。アポ無しでの訪問です。

まず建物の一階（ウェブサイト公表されていた住所）の受付で再開発局に行きたいと伝えると、再開発局は隣のビル(Civic Center)の 14 階に移動したとのこと。ちょっと出鼻をくじかれるが、めげずに隣のビルへ。

再開発局の受付で、BL 地区の再開発事業について担当者に話しを伺いたい旨を伝え、無事担当者 Sam Johnson さんに面会することができました。Sam さんの我々の疑問に対する答えは、現在は、BL 地区の特定の地点に対する汚染は特に再開発事業を進めるに当たって問題となっておらず、具体的な汚染サイトの住所は今すぐにはわからないとのことでした。

おそらく、EPA のプロジェクトが 10 年前と少々時間が経っていること、BL 地区のほぼ全域が VOCs や油によって汚染されていたということ、及び Sam さんが環境を専門とするスタッフではないなどから、現在は個別の土壌汚染サイトに対する思い入れはさほど無いのだろうかと感じました。

しかし、各地点で Phase I や Phase II 調査は行っているはずなので、それらの資料を探して、見つかったら後日メールで送りましょうと約束してくれました。探す時間と、紙ベースの資料のはずなので PDF にするのに時間がかかると思うからちょっと待ってねと言い添えてくれるほどの親切さでした。

思いのほか親切に対応してくれたサンディエゴ市の担当者に、石井&村上はたいそう満足して Civic Center を後にしました（後日談あり）。

---

坂野のちょこっとだけ ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

ブラウンフィールドでは、Everybody is a Hero (Heroine).  
石井君と村上さん、予想以上の活躍に驚きました。